

令和4年6月

東西目手久集落の皆様へ

徳之島愛ランドクリーンセンター
TEL81-7180 FAX 81-7191

令和4年度 東西目手久集落の皆様へ (ご報告)

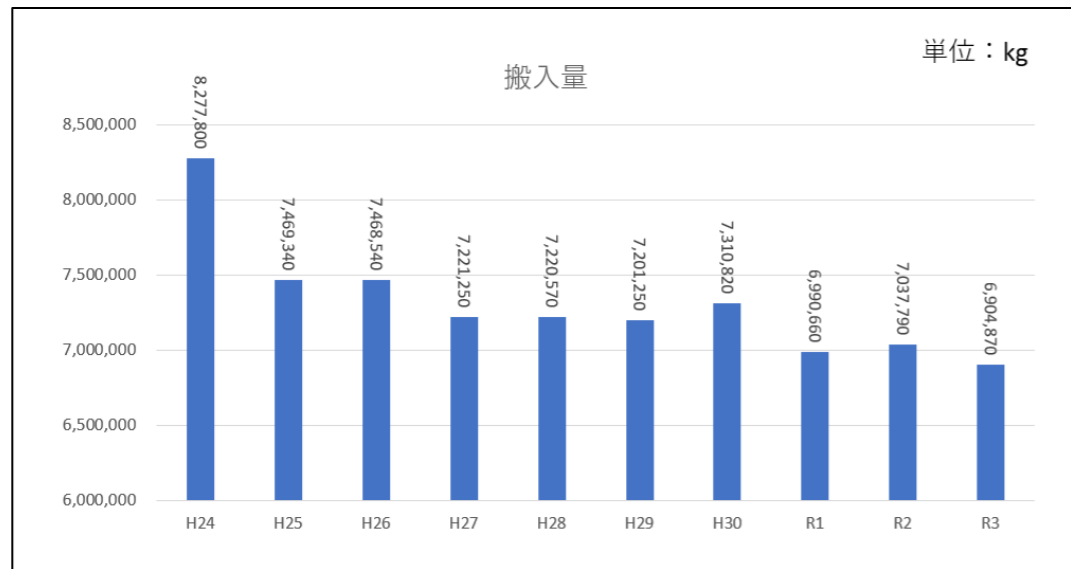
梅雨の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素より東西目手久の皆様には格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、例年開催しています東西目手久集落の皆様への、継続使用に関わる協定書に基づく説明会につきましては、現在の伊仙町の新型コロナウイルス感染症が拡大傾向にあることから、集合しての説明会ではなく、文書の配布による報告とさせていただきますようお願い申し上げます。

なお、内容についてご質問・ご意見などございましたら、担当までご連絡をお願い申し上げます。

1 継続使用に係る協定書に基づくご報告

① ごみ処理量の実績：令和3年度 6,904,870kg (約6,905トン)



平成24年度と比較すると令和3年度は、16.6%のマイナスとなっています。その後も処理量が少なくなってきたことから、分別とリサイクルが進んでいることが分かります。

② 施設の操業状況：令和3年度 ごみの受け入れ日数=310日
焼却施設稼働計画日数=280日

	稼働日数	計画停止日数	計画外停止日数
1号炉	223日	54日	3日
2号炉	95日	183日	2日

- ・計画停止については、毎年実施する施設の定期点検・補修による停止です。
- ・2号炉の稼働日数が少なく、計画停止日数が多いのは、修理した1号炉を優先し運転しているためです。2号炉については、公害防止対策のため、令和5～6年度で基幹改良を行い、当初の性能を発揮できるようにします。
- ・計画外停止については、ごみクレーンの故障や台風接近によるものです。

③ ダイオキシン類に係る“飛灰”の測定結果

令和3年度 測定内容：法定検査 (年1回) + 自主測定 (年5回) の合計6回
試料名：焼却飛灰
基準値：3ng-TEQ/g (3ナノグラム)
自主目標：2ng-TEQ/g (2ナノグラム)

令和3年度	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	平均値
採取日	R3.6.17	R3.8.26	R3.10.27	R3.11.24	R4.1.28	R4.3.30	
ダイオキシン濃度	0.36	0.78	0.47	1.6	0.5	1.2	0.82
飛灰排出炉	1号炉	1号炉	1号炉 2号炉	2号炉	1号炉	1号炉	
立会者数	7名	1名 対策	自主採取 対策	5名	4名	3名	

- ・ダイオキシン濃度は、その時のごみ質 (ごみの内容。例えば、紙・布類、ビニール・合成樹脂・ゴム、皮革類、不燃物類などの構成比率や重さ、水分の量) によって多少の変動がありますが、⑤で説明している「攪拌」「燃焼空気の調整」「ごみ供給量の調整」を重点的に行うことにより、ダイオキシン類の発生を基準値以下にしています。
- ・4回目と6回目の数値が他より高くなっていますが、基準値以下で問題はありません。

④ ダイオキシン類に係る令和4年度の飛灰測定予定

令和4年度の飛灰のダイオキシン類測定予定は以下のとおりです。

令和4年度	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
採取予定日	R4.6月頃	R4.7月頃	R4.9月頃	R4.11月頃	R5.1月頃	R5.3月頃

住民の方々の立会いも可能です。

⑤ 飛灰のダイオキシン類の測定結果の広報・情報共有について

- ・飛灰の測定結果について、速報値が判明次第、設置集落の区長及び三町行政に文書で通知し、住民の皆様へのお知らせを適宜お願いしています。

- ・広域連合議会や住民説明会など、各種会合において、測定結果を情報公開し、透明性のある運営を目指すとともに、職員の資質向上に努めます。
- ・令和4年3月から、クリーンセンター入り口に「掲示板」を設置しました。こちらにも測定結果を掲示しました。

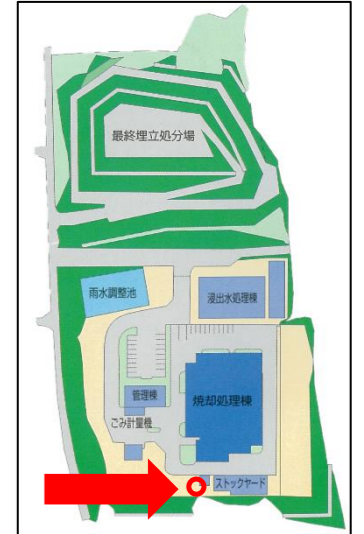


- ・埋立内容物は、有害物質を含む「焼却飛灰」「金属類」「陶器」「ガラス破片」などの焼却残渣（焼いた残り）です。
- ・焼却飛灰については、最終処分場から重金属類が溶け出さないように、キレート材（重金属固定化薬剤）を使用して“無害化处理”し固めています。また、飛散しないよう土を覆いかぶせ管理しています。

- ・ダイオキシン濃度（最終埋立処分場関係）
最終埋立処分場関係では、2か所の地下水を毎年検査しています。1か所は施設内の深井戸、2か所目はJAあまみ東部支所の選果場横の地下水ポンプです。

基準値は1 pg-TEQ/Lです。

採取場所	採取日	ダイオキシン濃度 (pg-TEQ/L)
クリーンセンター敷地内	令和4年1月11日	0.027
JAあまみ選果場横	令和4年1月11日	0.027



⑥ ダイオキシン類の濃度を基準値以下に抑えるために

ダイオキシンは300～400℃が最も発生しやすいといわれています。このため、クリーンセンターでは900℃～950℃の温度を保つよう、焼却炉の運転をしています。

・攪拌（かくはん）作業の徹底

ごみピット（ごみを貯める場所。右図参照。）内にあるごみを、ごみクレーンで何度も吊り上げ、落下させる事で、ごみの品質を均一にし、焼却する際の急激な温度低下を防ぎます。

・燃焼空気の調整

燃焼温度を下げる要因となる余分な空気を抑制し、必要に応じた燃焼空気を調整します。

・必要に応じて、ごみの供給量を調整します

以上の3点に重点を置いて運転を行い、ダイオキシン類の濃度を基準値以下におさえます。



⑦ 施設の保全

クリーンセンターは令和4年度で、稼働から19年目を迎えます。施設の老朽化による修繕箇所が多々出てきていますが、安全に稼働できるよう、保守班による設備点検・整備・修繕を行い、大きな事故や故障を引き起こさないよう日々対応しています。

⑧ 最終処分場について

- ・現在の埋立状況は、69%（令和3年7月時点）で、令和13年度で満杯の見込み。

② 基幹改良について

基幹改良については、来年度に工事発注を行うために、現在コンサルタント会社と工事発注に必要となる「発注仕様書」の作成業務委託契約を締結し、準備を進めています。

現時点の計画では、令和5年度に工事を発注し、令和6年度には工事完了となる予定です。また、工事費については、現時点での概算工事費が22億3800万円、国からの交付金が6億3488万円となっていますが、現在の世界情勢による資材物価の高騰・製品の長納期化や新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、今年中に設計金額を決定します。

③ ごみの“減量”、“分別”、“リサイクル”について（お願い）

クリーンセンターでは、令和3年度に「2021年度版 家庭ごみの分け方・出し方 手引書」を3町を通じて全家庭に配布しました。この中の2ページに、“ごみ減量のすすめ”としてエコバックなどの色々なごみの減らし方をすすめています。地球の資源には限りがあります。

未来の子供たち孫たちが、この徳之島で社会生活を持続していけるよう、ムダを減らしましょう。

また、センターでは、缶やビンを手作業による選別作業を行っています。“分別”については、少しずつ広がっているように感じますが、この手作業選別をすると、まだ非常に悪いことがわかります。リサイクルはきれいな状態でなければリサイクルできません。手引書をお読みいただき、正しいごみ出しをお願いします。

□ 徳之島愛ランド広域連合公式サイト <https://tokunoshima-iland.jp/>
(2021年度版 家庭ごみの分け方・出し方 手引書も掲載しています。)